

沖縄県出身の実業家・西銘一氏に名誉市民授与
カリフォルニア州カルバーシティー市(映画とスポーツの田園都市)

アメリカ、カリフォルニア州カルバーシティー市議会は沖縄出身の実業家・西銘一(はじめ)氏に、沖縄県とカルバーシティーの地域社会の発展と友好関係の促進及び長年に亘るエネルギッシュな活動をとおして人的育成に貢献したとして、名誉市民の称号を授与する決定をし、認定式典がカルバーシティー姉妹都市委員会(ピエール・ジョージョン・ロシュ委員長)によって5月21日に举行された。



当日、150人の来賓を前に16年間に亘って助役を勤めたデール・ジョーンズ氏の宣誓によっておこなわれ、日米両国歌が演奏された。カルバーシティー市長のアラン・コーリン氏より西銘一氏に名誉市民証書とメンバーシップ・カードが贈られた。西銘一氏より市に記念品とコーリン市長に「兜」の贈呈があった。市警察ゲーリー・マーテイン本部長、市消防局のニール・ペツイング副署長が祝辞を述べた。晩餐会席上西銘氏のゲストが紹介された。友人でもありカルバーシティー市と永きにわたり深い関係を持つ吉村卓三博士(東京出身、動物博士、作家)、在ロサンゼルス日本国総領事館の横山雅紀領事、南加日系商工会議所のグレース・柴副会頭、比嘉朝儀・博子沖縄県人会会長夫妻、当銘貞夫・同副会長、小山荘一会社社長などであった。認定式前には全員がカルバーシティーより用意された大型リムジンに乗って、白バイ3台のエスコートで会場に向かった。



西銘一氏は、現在は東京在住、1997年に設立した(株)ムンダスコーポレーションを拠点して、21もの各種企業や団体などの顧問を務め、指導に当たっている。2005年春に全米及び全世界にハリウッドから配給予定の日本・アメリカ・中国合作の大型映画「ザ・オキナワ・プログラム」の制作にあたって、西銘氏がゼネラルプロデューサー、総合企画ならびに総監督として、現在ハリウッド映画関係者及び3人の原作者と企画を協議中である。世界一の健康長寿地域の奄美諸島・沖縄県を世界の長寿メッカにしたいとの夢を持つ。同氏の実業界、文化関係のみならず、政治、経済での今後の更なる活躍が大いに期待されている。著書「いま沖縄から日本が変わる」(心泉社発行)、等多数。出生地北大東島村、伊平屋村出身、55才。

当銘貞夫(北米通信員)

写真は名誉市民認定式後ゲストと一緒に。左より比嘉博子夫人、当銘貞夫(県人会副会長)、比嘉朝儀(県人会会長)、横山領事、西銘氏、吉村博士、小山社長